



Cisco Secure 仮想アプライアンスの管理

- [IP アドレス \(1 ページ\)](#)
- [仮想アプライアンスのライセンス \(1 ページ\)](#)
- [強制リセット、電源オフ、およびリセットの各オプションが完全にサポートされていない \(2 ページ\)](#)
- [仮想アプライアンスの CLI コマンド \(2 ページ\)](#)
- [仮想アプライアンスの SNMP \(3 ページ\)](#)

IP アドレス

仮想アプライアンスに最初に電源を入れると、管理ポートは DHCP ホストから IP アドレスを取得します。仮想アプライアンスが DHCP サーバから IP アドレスを取得できない場合は、管理インターフェースの IP アドレスとして **192.168.42.42** が使用されます。仮想アプライアンスで [システム設定 (System Setup)] ウィザードを実行すると、CLI によって管理インターフェースの IP アドレスが表示されます。

仮想アプライアンスのライセンス



- (注) 仮想アプライアンスのライセンスをインストールする前に、テクニカルサポートのトンネルを開くことはできません。テクニカルサポートのトンネルに関する情報は、AsyncOS リリースのユーザガイドにあります。

Cisco Secure 仮想アプライアンスには、ホスト上で仮想アプライアンスを実行するための追加ライセンスが必要です。このライセンスは複数のクローン作成された仮想アプライアンスに使用できます。ライセンスは、ハイパーバイザに依存しません。

Web セキュリティ 8.5 以降の AsyncOS、E メール セキュリティ 8.5.x 以降の AsyncOS、およびセキュリティ管理 8.4 以降の AsyncOS の場合：

- 個々の機能の機能キーごとに有効期限が異なる可能性があります。

- 仮想アプライアンスのライセンスの有効期限が切れた後も、180 日間のセキュリティサービスを使用せずにアプライアンスは引き続き Web プロキシ (Web セキュリティアプライアンス) として機能し、電子メールを配信し (Eメールセキュリティアプライアンス)、または隔離済みメッセージを自動的に処理 (セキュリティ管理アプライアンス) します。この期間中、セキュリティサービスは更新されません。Cisco Secure Email and Web アプライアンスでは、管理者とエンドユーザーが隔離を管理することはできませんが、管理アプライアンスは引き続き管理対象 Cisco Secure Email Gateway Appliance からの隔離済みメッセージを受け入れ、スケジュールされた隔離済みメッセージの削除が実行されます。

Eメールセキュリティ 8.0 の AsyncOS および Web セキュリティ 7.7.5 と 8.0 の AsyncOS の場合：

- 機能キーは仮想アプライアンスのライセンスに含まれています。機能キーは、該当の機能がアクティブ化されていない場合でも、ライセンスと同時に失効します。新しい機能キーを購入する場合は、新しい仮想アプライアンスのライセンスファイルをダウンロードしてインストールする必要があります。
- 機能キーが仮想アプライアンスのライセンスに含まれているため、AsyncOS 機能の評価ライセンスはありません。



(注) AsyncOS バージョンを復帰させた場合の影響については、ご使用の AsyncOS のリリースのオンラインヘルプまたはユーザガイドを参照してください。

関連トピック：

- [仮想アプライアンスのライセンスファイルのインストール](#)

強制リセット、電源オフ、およびリセットの各オプションが完全にサポートされていない

以下の操作は、ハードウェアアプライアンスのプラグを抜くことと同等であり、特に AsyncOS の起動中ではサポートされていません。

- KVM の強制リセットオプション。
- VMware の電源オフオプションおよびリセットオプション。

仮想アプライアンスの CLI コマンド

Cisco Secure 仮想アプライアンスには既存の CLI コマンドに対する更新、および仮想アプライアンス専用のコマンドである **loadlicense** が含まれています。次の CLI コマンドが変更されています。

コマンド	仮想 SMA でのサポートの有無	情報
loadlicense	対応	このコマンドを使うと、仮想アプライアンスにライセンスをインストールすることができます。最初にこのコマンドを使用してライセンスをインストールしないと、仮想アプライアンスの System Setup ウィザードは実行できません。
etherconfig	—	仮想アプライアンスにペアリングのオプションは含まれていません。
version	—	このコマンドは、UDI、RAID および BMC 情報を除き、仮想アプライアンスに関するすべての情報を返します。
resetconfig	—	このコマンドを実行すると、アプライアンス上に仮想アプライアンス ライセンスおよび機能キーが残ります。
復元	—	AsyncOS 8.5 for Email Security からは、ご使用のアプライアンスのオンラインヘルプおよびユーザガイドのシステム管理の章で動作が説明されています。
reload	—	このコマンドを実行すると、アプライアンスで仮想アプライアンス ライセンスおよびすべての機能キーが削除されます。このコマンドは、Web セキュリティアプライアンスでのみ使用可能です。
diagnostic	—	次の diagnostic > raid のサブメニューオプションでは、情報は返されません。 1. Run disk verify 2. 実行中のタスクのモニタ 3. Display disk verify verdict このコマンドは、Eメールセキュリティアプライアンスでのみ使用可能です。
showlicense	対応	ライセンスの詳細を表示します。 仮想 E メールおよび Web セキュリティアプライアンスでは、 featurekey コマンドを使用して追加情報を入手できます。

仮想アプライアンスの SNMP

仮想アプライアンスの AsyncOS はハードウェア関連の情報については報告せず、ハードウェア関連のトラップは生成されません。次の情報は、クエリーから除外されます。

- powerSupplyTable

- temperatureTable
- fanTable
- raidEvents
- raidTable

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。